

日中韓ワ - クシヨツプ「東アジアにおける現代の湖沼 流域系プロセスと人間活動
(Modern Lake-Catchment Processes and Human Activity in East Asia)」の開催について

1. 主 催 日本学術会議 地球惑星科学委員会国際対応分科会
Nanjing Institute of Geography and Limnology, Chinese Academy of Sciences (NIGLAS)
Key Laboratory of Lake Sedimentation and Environment, NIGLAS
Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University
Kanazawa University COE Program
Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources (KIGAM)
2. 後 援 Chinese Academy of Sciences (CAS)
Natural Science Foundation of China (NSFC)
Nanjing Institute of Geography and Limnology, Chinese Academy of Sciences(NIGLAS)
Japanese Geomorphological Union, Japan
Kanazawa University, Japan
The Korean Quaternary Association, Korea
3. 日 時 平成19年9月17日(月)～21日(金)
4. 場 所 中国科学院南京地理湖沼研究所(中国・南京市)

5. 次 第

開催趣旨:

近年の東アジア地域でも経済の拡大を契機に地域で共有すべき環境問題への関心は高まっており、環境変動に対する予知・予測、そして対策が検討されているが、その多くは現在(時間的・空間的)の環境システムにおける観測・観察事実(資料)に依存しているという限界がある。システムの変更が予想される環境変動(温暖化を含む)の推定やその対応策には、現在や観測時代の資料だけではなく、それ以前の環境記録の詳細な検討が不可欠であり、現在の環境プロセスと解像度の高い過去の環境変動を結合し、環境管理計画の中に取り入れる必要がある。即ち、「現在」のモニタリングを通して(プロセスの解明)、「過去」のモニタリング結果(時系列情報)をその時点の枠組み(環境システム)とプロセスから再構築し、今後(「未来」)の環境変動推定に結実させなければならない。現行の環境レジ - ム(間氷期)には中世温暖期・小氷期のようなシステムが含まれているが、東アジアではこの時期の記録は顕著な人為的な影響が推定される産業革命期や高度成長期を含む観測時代に繋がる。この時間軸に沿った近過去・近未来の環境変動推定には、現在の観測・観察記録と過去の記録(代替資料等)の接続や空間的に異なる環境システムを定量的に比較するための共通のトレ - サ - と測器(モニタリング装置)が不可欠である。

本ワークショップの主な目的は、湖沼 流域系というシステム(湖沼堆積物や流域環境試料から得られる環境情報)をもとに、東アジアにおける現代と歴史上の環境情報を交換することである。

プログラム：

- 17 September
Registration
- 18 September
Opening ceremony and invited oral presentations (morning),
Session oral presentations, posters (afternoon)
- 19 September
Session oral presentations, posters, further discussion
- 20 September
Excursion
- 21 September
Departure.

[問い合わせ先]

柏谷健二 金沢大学環日本海域環境研究センタ - 920-1192 金沢市角間町
Tel & Fax: 076-264-6531, e-mail: kashi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp